

議会 NEWS (1)

議会 NEWS

駅周辺再開発等特別委員会
調査報告・中間報告

本委員会は、平成24年3月に「保谷駅南口地区第一種市街地再開発事業」が完了し、また、同事業における決算審査も終了したことにより調査報告を行いました。なお、あわせて「ひばりヶ丘駅周辺まちづくり」についても中間報告を行いましたので、その概要をお知らせします。

保谷駅南口地区市街地再開発事業の概要

同地区の商業施設は、駅前の都道233号線沿いに小売店舗を中心に広がりを見せていますが、沿線他地区と比較しても、主要道路の交通環境、駅前の開発整備が立ちおくれっていました。

このため本事業は、商業施設と都市型住宅を合わせ、交通広場と一体整備することとで快適で安全な歩行者空間を確保し、商業環境の整備を図りながら駅前におさわししい良好な環境整備を目指したものです。

保谷駅南口地区市街地再開発事業について調査報告

【調査経過】
委員会は、平成23年2月10日に新たな委員が選出さ



保谷駅南口の交通広場

れ、これまで14回の会議を開催しました。その中で、事業に係る予算の審査のほか、再開発事業における視察等を行いました。
本事業は、工事期間の延長等による権利者への追加補償もあり、最終的な事業費は、108億7千3万3千円（総直接事業費 平成13年度から平成23年度まで）となりました。
再開発事業における権利者からの徴収金として98万5千円が未納となつていますが、この債権債務に関しては、一般会計予算に引き継ぐものです。
平成24年3月には駅前のペDESTリアンデッキ及び交通広場が完成し、また、全体の事業費も確定したことをもって、調査を終了を決定しました。

【調査報告に添えられた主な意見】

・保谷駅南口については、ペDESTリアンデッキを含む交通広場とI街区ビルとII街区ビルとが建ち並び、防災面からも安全な、そして快適な歩行者空間が確保されたと言える。しかしながら、商店街の建ち並ぶ都道233号線の幅員が狭く交通量が多いという危険



都市計画道路3・4・21号線の代替地を視察

りについて中間報告
【調査経過】
委員会では、これまで11回の会議を開催し、ひばりヶ丘駅北口のバリアフリー化に関する陳情の審査もあわせ、また、現地での視察も積極的に実施してきたところです。
これまで委員会は、都市計画道路3・4・21号線の事業進捗を図る目的で

性を除去することが課題として残されている。今後も都市計画道路3・4・12号線の早期整備を東京都に対して引き続き強く要望されたい。
・今後の商店街のあるべき姿等についても引き続き検討し、市が積極的に取り組むことを要望する。

ひばりヶ丘駅周辺まちづくりの概要

ひばりヶ丘駅北口周辺は、生活道路沿いに発達した商店街を中心に道路・公園といった都市基盤が未整備のまま市街化が進んだことから、狭く入り組んだ道が多く、防災面や都市景観等に課題を抱えています。

このため、都市計画道路3・4・21号線の整備事業にあわせ、商業を中心とした「センターゾーン」、商店街のよさを継承した個性豊かな「路線型商店街ゾーン」、戸建住宅とマンションなどの共同住宅とが共存する「中低層住宅地ゾーン」による秩序ある街並み形成を目指して、現在、事業を進めています。

【中間報告に添えられた主な意見】

・権利者の希望に真摯に耳を傾け、生活再建に向けた助力に最大限の手だてを講じ、駅舎改築、バリアフリー化の進捗を早めつつ、できるだけ早期の整備完了を図りたい。
・道路事業との相乗効果もあることから、地区計画に沿った土地の共同化、建て替え等の誘導により着実な進捗が見られるように、行政として可能な最大の努力を尽くすように望みたい。

※詳しい内容は会議録（2月中旬発行予定）に収録されます。両庁舎の情報公開コーナーや各図書館、ホームページ等でご覧ください（ホームページでは2月下旬公開予定）。

「議会報の編集」について
小平市議会と意見交換

平成25年1月15日に、市議会が発行する広報紙について、当市の議会報編集委員会の大林昭委員長、石田ひろこ副委員長と小平市議会の編集委員会の方々との間で意見交換を行いました。このような機会は初めてで、とても有意義な時間となりました。

「議会報の編集」について
小平市議会と意見交換



議員が本会議で行う一般質問や常任委員会での審査の様子等、限られた紙面スペースの中で、「何を記事にするか」「どう表現するのか」「どうしてこの記事を選ぶのか」、そのときの定例会によっても議題となる内容はいろいろです。
編集に関しては、意見を交換する中では、「議員の一般質問の内容は、誰が要約し原稿にまとめるのか」「写真はどうのようにして選ぶのか」「委員会審査の内容はどのようにピックアップする

るか」、それぞれの議会の編集方法について紹介しました。
ちなみに、西東京市議会では、一般質問の原稿は各議員が、委員会の審査は、主に、その委員長が内容を選んでいきます。「480文字でいかに50分の質問内容をまとめるのか（一般質問の原稿）」、当市の議員の苦勞話も披露させていただきました。

また、小平市議会の編集委員からは「西東京市議会の議会報は、いつから今のスタイルになったのか」等、過去を振り返る質問もありました。合併から12年、議会報の発行も既に今号で54号目、改めて、時のたつのは早いものだと感じました。今後とも、よりわかりやすい紙面づくりに努めてまいります。議会報に関するご意見をお待ちしております。

議員研修会を開催しました

「自治体の防災・危機管理における地方議員の役割」

平成24年11月1日に全議員を対象とした研修会を開催しました。

講師は、中央大学大学院公共政策研究科教授、明治大学危機管理研究センター上席研究員のほか、多方面でご活躍されておられる幸田雅治氏です。

研修では、東日本大震災における被災地の状況について、写真を使いながら、その現状と、それぞれの被災自治体の議会が、そのとき、どのように活動したのか、専門家の目から見た現

状と課題についてお話をいただきました。

また、災害の際に、議員の果たす役割として、被災者との橋渡しの役割、それぞれの地域の課題解決に向けた活動が必要とされ、審査機能や行政に対する監視機能が必要であると指摘がありました。

また、研修テーマのほかにも、ドイツのハンブルク市における議会審議について紹介がありました。ハンブルク市では、さまざまな形で市民が議会に直接参加していることなど、大変貴重なお話をいただきました。



その他、最近の地方自治法改正について、国の「地方行政検討会議」での議論やご意見等、今後の議会活動に役立つ内容などが紹介されました。

出席した議員からも活発な質疑応答が交わされ、充実した研修となりました。